

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	陽光ホーム	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人育桜福祉会 ・代表者名 星 栄 ・住所 川崎市中原区西加瀬10番3号	評価者	障害計画課長
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	共同生活援助（定員 16名）在籍者 16名(平成29年3月31日現在) 地域生活体験事業（定員 1日2名）延利用日数 102日																																										
収支実績	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th rowspan="2">収支差額</th> </tr> <tr> <td>経常活動</td> <td>68,328千円</td> <td>経常活動</td> <td>60,028千円</td> <td>7,546千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>35,643千円</td> <td>人件費</td> <td>44,807千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市単独扶助</td> <td>11,397千円</td> <td>事務費</td> <td>2,461千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>11,737千円</td> <td>事業費</td> <td>9,760千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>3,000千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9,551千円</td> <td>施設整備等</td> <td>754千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>68,328千円</td> <td>合計</td> <td>60,782千円</td> <td></td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入		支出		収支差額	経常活動	68,328千円	経常活動	60,028千円	7,546千円	給付費	35,643千円	人件費	44,807千円		川崎市単独扶助	11,397千円	事務費	2,461千円		指定管理委託料	11,737千円	事業費	9,760千円		拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	3,000千円		その他	9,551千円	施設整備等	754千円		合計	68,328千円	合計	60,782千円			
収入		支出		収支差額																																							
経常活動	68,328千円	経常活動	60,028千円		7,546千円																																						
給付費	35,643千円	人件費	44,807千円																																								
川崎市単独扶助	11,397千円	事務費	2,461千円																																								
指定管理委託料	11,737千円	事業費	9,760千円																																								
拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	3,000千円																																								
その他	9,551千円	施設整備等	754千円																																								
合計	68,328千円	合計	60,782千円																																								
サービス向上の取組	<p>・日常生活能力は持っているが社会のルールに基づいた行動に課題がある利用者に対して、「不適応行動を防ぐ支援」や「職員が代わりに行う支援」から「自分が希望する生活を主体的に計画・実行していくための支援」を丁寧に行うことによって、地域で暮らしているイメージを利用者自身が思い描けることを重視している。</p>																																										

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者自身が、必要な支援を受けつつ主体的に自分の生活を組立てて実行していくことを目標とする支援が行われている。特に金銭管理や買物においては、職員が判断・購入するのではなく、買いたいものを買うための計画を利用者とともに考え、実際に地域の中で暮らし始めたときの具体的なイメージを持てるよう取り組んでいる。その結果、2名がグループホームへの移行を果たした。 ・利用者の思いを実現するため、家族や後見人に加え、相談支援センターや日中の通所先等の関係機関と常に連携し、地域移行後の支援体制も見据えて取り組んでいる。 					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	4	4
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支出については、備品である洗濯機や(男性棟の)すべての乾燥機を劣化に伴う買い替えを行う中でも、適正な執行に努め、予算内で執行を行った。 ・収入については、債権管理を的確に行い、安定した給付費収入により、当初見込を上回った。また、収支もプラスであった。 ・法人内部の確認体制に加え、公認会計士による会計専門指導を実施し第三者によるチェック体制を整えているなど、適正な会計処理のための体制を整備している。 					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのコミュニケーションを重ねながら意思の確認を行って個別支援計画に反映している。また、日々の支援における対応では、必要事項を全職員が共有できるよう、業務日誌・業務伝達帳による周知を徹底している。 ・ケースカンファレンスは、相談支援センターや区保健福祉センターに加え通所先の事業所にも参加してもらい、利用者の生活全般を考慮した、定期的あるいは必要に応じた話し合いの場となっている。 ・利用者とのコミュニケーションにおいて、自ら要望を伝えることのでかかって混乱を招く場合は「相談ノート」を書いてもらう等の工夫を行い、また、言葉の少ない利用者にはカード等の利用により意思確認を行っている。さらに、利用者の障害特性に合わせて情報提供方法を工夫し、情報が伝わったかを確認しながら自ら考えて次のステップへ進めるよう十分な時間を確保して支援している。 					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者や支援員のみならず世話人の資質向上のため、法人主催の「世話人研修」「世話人会議」に出席しているほか、施設長やサービス管理責任者との対話を重視し、事業計画・個別支援計画の内容理解を図っている。 ・土砂災害時の対応も含めた「陽光ホームの防災・防犯マニュアル」を作成した。災害時の連携のため、井田地区の6施設と協定を締結し、緊急時の協力体制や必要備品の所在の確認等について会議が開催されている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種保守・点検等について、施設職員及び委託業者により適切に実施されている。 ・安全・安心を確保するため、環境整備と併せて日常的に事業所内外の整理整頓を心掛けるとともに、危険物の保管場所を限定する等の工夫をしている。消耗品等については「誰が見ても、どこに何がどれだけあるか」が分かるよう、点在していたものを1か所に保管し、同時に在庫管理と発注の効率化を図っている。 					

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→40点以上50点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・区保健福祉センターや相談支援事業所等、他機関と緊密に連携をとり、「利用者1人1人の地域移行までとその後」を視野に入れた支援に取り組んでいる。

・地域生活体験事業では、様々な希望や不安を抱えながら体験を考えている利用者や家族の思いを大切に、時間をかけて地域生活のイメージをつくっていくために繰り返し体験を希望する利用者にも柔軟に対応する等、ニーズに即した丁寧な取組が行われている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・地域生活体験事業について、様々な立場にある希望者の受け入れを実施し施設としての役割を果たしていることは高く評価できる。今後については、他機関との緊密な連携に加え、パンフレットによる広報等により、利用希望の掘り起こしと稼働率の向上を推進することが求められる。